

第2期小田原市食育推進計画(素案)に対する市民意見の募集結果について

1 意見募集の概要

政策等の題名	第2期小田原市食育推進計画(素案)
政策等の案の公表の日	平成29年4月4日
意見提出期間	平成28年12月15日から平成29年1月13日
市民への周知方法	<ul style="list-style-type: none">・ 広報おだわら12月15日号・ 市ホームページへの掲載・ 意見募集要項を市内公共施設へ配布

2 結果の概要

提出された意見は、次のとおりです。

意見数（意見提出者数）	18件（4人）
インターネット	2人
ファクシミリ	2人
郵送	0人
直接持参	0人

3 提出意見の内容

パブリックコメントで提出された意見の内容とそれに対する市の考え方は、次のとおりです。

〈総括表〉

区分	意見の考慮の結果	件数
A	意見を踏まえ、政策等に反映したもの	0
B	意見の趣旨が既に政策等に反映されているもの	3
C	今後の検討のために参考とするもの	9
D	その他（質問など）	6

〈具体的な内容〉

(1) 基本理念に関すること

	意見の内容（要旨）	区分	市の考え方（政策案との差異を含む）
1	第1期計画を引き継ぎ、基本理念に「しっかり食べる力」と入っているのよい。	B	第2期計画は、第1期計画を引き継ぐことを基本としています。

(2) 計画の視点に関すること

	意見の内容（要旨）	区分	市の考え方（政策案との差異を含む）
1	視点5「地域における食生活改善のための取組の推進」について、具体的な取組方法が示されていない。	B	視点から考える取組については、基本目標ごとに内容が記載されています。家庭や学校・地域において、それぞれが進めていくなかでより具体性をもって進めていきます。
2	視点5「地域における食生活改善のための取組の推進」について、地域における基本施策に力を入れ、コンビニやスーパーにおいて選び方や知恵について啓発をして欲しい。	C	家庭や学校、幼稚園・保育所等と連携し、地域における取組が進むよう働きかけていきます。

(3) 基本目標に関すること

	意見の内容（要旨）	区分	市の考え方（政策案との差異を含む）
1	基本目標では、表現が行政言葉で、市民に訴える文言ではない。	D	可能な限り、市民にわかりやすい言葉や表現に努めました。
2	計画内容はよくわかったが、具体的にどこから何を取り組むのかが不明瞭である。	C	ライフステージに応じた食育の推進や行政の取組を通じて取り組んでいきます。
3	基本目標2「食を通じた豊かな心と地域の交流の形成」について、是非とも取り組んで欲しい。	D	ライフステージに応じた食育の推進や行政の取組を通じて取り組んでいきます。

4	基本目標3「安全、安心で環境にやさしい食生活の推進」について、環境に関する点がわかりにくい。	C	本計画は、食育を推進していくための基本的な方向性を示したものです。家庭や学校・地域において、それぞれが進めていくなかでより具体性をもって進めていきます。
5	現状が年代別に示されていて、わかりやすい。	D	第2期計画の特徴の一つです。
6	ライフステージ別に目標が特徴に応じて設定できている。	D	第2期計画の特徴の一つです。
7	基本目標4「食文化の継承」について、具体的に示してはどうか。	B	40ページにおいて視点3～5からみた取組内容を具体的に記載しています。家庭や学校・地域において、それぞれが進めていくなかでより具体性をもって進めていきます。

(4) 計画指標に関すること

	意見の内容(要旨)	区分	市の考え方(政策案との差異を含む)
1	基本目標1「食育を通じた健康づくり」の栄養バランスを考えて食事をする市民の割合の目標値の設定が高いのではないか。	C	本市として考える栄養バランスのよい食事についての周知をしながら、目標値に近づけるよう努力していきます。

(5) 食育推進の取組に関すること

	意見の内容(要旨)	区分	市の考え方(政策案との差異を含む)
1	小田原市がモデルとなり、6月の食育月間に、行政や各種団体等が連携した取組を行い、全国に発信したらどうか。	C	既に食育月間は全国的な取組となっています。これについては引き続き、各関係機関と連携して取り組んでいきます。
2	県主催の事業について、参加者数が少なく周知の方法が悪いのではないか。	D	市としても県事業の周知に協力するなど、県との連携を図っていきます。

3	食の基本は家庭に起因するものであり、教育現場等において、子ども達に食の大切さを理解させるとともに、親を対象に料理教室や講座を実施し、食に関する重要なことを伝えたらどうか。	C	ライフステージに応じた食育の推進や行政の取組を通じて取り組んでいきます。
4	取組に参加できない家庭のフォローが大切である。	C	ライフステージに応じた食育の推進や行政の取組を通じて取り組んでいきます。
5	具体的な落とし込み、実行体制があるとさらによいと感じた。	C	ライフステージに応じた食育の推進や行政の取組を通じて取り組んでいきます。
6	バランスのよい食事の啓発をより具体的な実施案としたらどうか。	C	本計画は、食育を推進していくための基本的な方向性を示したものです。具体的な取組については、家庭や学校・地域等において、ライフステージに応じた食育の推進や行政の取組を通じて取り組んでいきます。

(6) 救急医療に関すること

	意見の内容（要旨）	区分	市の考え方（政策案との差異を含む）
1	脳血管疾患についての救急医療で予防という点でも、血管内治療を普及させる手立てを考えるべきではないか。	D	食育推進計画の内容とは異なるご意見であると考えます。